

こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
幼保連携型認定こども園
中央文化保育園
幼保連携型認定こども園
浦町保育園



青森中央短期大学附属第一幼稚園開園50年記念バルーンリリース

特集：青森中央短期大学開学50周年


vol.103

目次

特集：青森中央短期大学開学
50周年を迎えて

2

青森中央学院大学

4

- ・暮らしと地域
- ・「社会デザインで挑む地域課題の解決と新ビジネスの創出」キックオフセミナー
- ・青森商業高校との高大連携事業
- ・黒石商業高校出前講座
- ・援農サークル「en」での学び
- ・「青森県少年サポートボランティアピコット青森」の活動について
- ・国際交流センターより
- ・オーストラリア留学を終えて
- ・オープンキャンパスのサポートを体験して
- ・別科助産専攻 開設3年目を迎えてクアウォーキングを支えようサークル
- ・2020年度別科助産専攻オープンキャンパスを開催しました
- ・2020年度「ひらめき☆とときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催しました

青森中央短期大学

8

- ・開学50周年記念式典が行われました
- ・栽培・加工・調理体験を通して食を楽しむ食育プログラムの開発
- ・JFA公認キッズリーダー養成講習会を受講して
- ・「中短生発県民にパワーを！青森を元気にする弁当」考案と販売
- ・まちなかキャンパスミニ公開講座
- ・郷土と文化
- ・管理栄養士免許取得のための勉強会
- ・ピオトープ公開講座開催

附属第一・第二・第三幼稚園
中央文化保育園 浦町保育園

10

- ・行事アルバム
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本

青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校

12

- ・翔麗祭ファッションショー
- ・翔麗祭にて模擬店を出店しました
- ・「郷土と文化」講話
- ・創立記念レクリエーション
- ・経理発信情報
- ・ファッション通信
- ・おススメ図書
- ・卒業生ピックアップ

学園共通

14

- ・青森中央学院大学 青森中央短期大学「翔麗祭2020」を開催しました
- ・教職員合同SD研修会を行いました
- ・青森創生人財育成・定着推進協議会設立
- ・公開講座等案内

特集

青森中央短期大学開学50周年

青森中央短期大学開学50周年を迎えて

青森中央短期大学 久保 薫学長

昭和45年（1970年）に、青森中央短期大学は、家政学科家政専攻として開学しました。

その後、食物栄養学科（栄養士養成）、幼児保育学科（保育士・幼稚園教諭養成）、専攻科福祉専攻（介護福祉士養成）、経営情報学科（会計士、IT人材養成）、看護学科（看護師養成）と、その時代に必要とされる人材の育成に一貫して取り組んで参りました。

学校教育法によると、短期大学は『深く専門の学芸を教授研究し、職業又は实际生活に必要な能力を養成することを主な目的とすることができる。』とあります。また、日本学術会議によると、本学の教育課程は家政学の分野に属し、家政学は『生活の質の向上と人類の福祉に貢献する実践的な総合科学』と定義されています。学生は、職業をめざして専門性を学ぶだけでなく、生活者の教養としても学んできました。

卒業生は9,000名にのぼり、青森県を中心に全国各地で、情熱あふれるプロフェッショナルとして、また、家族の健康と安心を支える生活者の一人として活躍していることでしょう。

今まで、本学を支えてくださった卒業生の皆様、歴任教職員の皆様、いつも応援してくださいました地域の皆様には、心より感謝を申し上げます。これからも、『情熱あふれるプロフェッショナルを輩出し、ともに地域といきる大学』（青森中央短期大学将来ビジョン）として不断の努力をすることをお約束いたします。



青森中央短期大学将来ビジョンロゴマークが決まりました

「愛あれ、知恵あれ、真実（まこと）あれ」の建学の精神のもと、地域に必要とされる専門職を輩出している青森中央短期大学では、これから先の10年間を展望した将来ビジョン『情熱あふれるプロフェッショナルを輩出し、ともに地域といきる大学』を掲げています。

この将来ビジョンは、建学の精神を具現化した、「情熱（Passion）と能力（Competency）をもって、社会の幸せの達成（Well-being）をめざす」人材、すなわち、青森を愛し、学び得た専門性を地域のために活かす人材の育成を目指すことを表現しています。

このたび、将来ビジョンの実現に向けた大学関係者の一体感の醸成と地域の皆さまへの浸透を目的にロゴマークを一般公募し、塩崎 榮一氏（大阪府）のデザインに決定しました。

採択されたロゴマークは、キーワードである「情熱（Passion）」、「能力（Competency）」「社会の幸せの達成（Well-being）」の頭文字「PCW」をベースに、日々成長する本学学生の姿をイメージしてデザインされました。また、カラーに使われている「オレンジ」は情熱、「グリーン」は青森の雄大な自然、「ブルー」は成長・飛躍、「レッド」は将来ビジョンを実現する強い決意を表しています。

今後、青森中央短期大学では、このロゴマークを広報活動に活用し、地域の皆さまとともに将来ビジョンの実現に向けて邁進してまいります。



情熱あふれるプロフェッショナルを輩出し
ともに地域といきる大学

50周年を迎え、先生方にさまざまな思いを語っていただきました

ヨーロッパ研修旅行の思い出



幼児保育学科 大沢 陽子学科長



青森中央短期大学ヨーロッパ研修旅行の際、学生が輪番で綴った日記が見つかり懐かしく思いだされた。食栄・幼教・経情の学生、23名（引率者は学長・大沢・桜庭雅）が、1996年1月2日から2週間イタリア、スイス、ドイツ、ベルギー、フランス、イギリスを訪問した記録である。

スイスではペスタロッツ生誕の地で幼稚園を見学し、幼稚園教育の意見交換や学生による折り紙制作の実演と子どもの歌遊びを一緒に楽しみ有意義な時間を過ごすことができた。ロンドンの老人ホームでは、年老いても日常生活でおしゃれを嗜む英国女性の品位が感じられ、さすが紳士淑女の国という印象を受けた。

正に「百聞は一見にしかず」美術館・教会・建築物、歴史、学生と共にたくさんの感動をもたらした旅行であった。



50周年に思うこと



食物栄養学科 棟方 秀和学科長



開学40周年の年度末に、東日本大震災が発生した。学位記授与式は何とか実施できたが、卒業祝賀会は開催できなかった。開学50周年のときに、卒業祝賀会の代わりになるものを何か企画したいとずっと思い続けてきた。それで自分の中の開学40周年が完結する予定であった。

しかし、今度は新型コロナウイルス感染症の拡大である。これにより予定していた開学50周年行事のほとんどが延期となり、2020年3月卒業の第49期生の卒業祝賀会も開催できなかった。

開学50周年は、多くのことをやり残したままとなるであろう。実施できなかったことは残念であるが、もうやれなくなったわけではない。いつか必ず実施しようと思っていれば、開学40周年も開学50周年も完結させることができる日が来るはずである。



こぶしの花咲く頃



幼児保育学科 前田 美樹教授



清楚で可愛いこぶしの花と出会ってから18回目の秋を迎えようとしています。もともと芍薬や木蓮など、春に咲く少しほっこりとした花が好きで私にとって、こぶしの花や桜の花が風に揺れる春のキャンパスは、とても心地の良い空間です。

こぶしの花の「こぶし」とは、「開花する直前の蕾の形が子どもの手のこぶしのように見える」ことに由来します。こぶしの花は上方だけを向いて咲く木蓮とは違い、蕾の段階からさまざまな方向を見て、可憐な花を咲かせます。その様子は「愛らしさ」、「友愛」、「歓迎」という花言葉にぴったりです。

根雪がまだ残る3月、ふと、巣立っていった学生らの声や足音がしないことに気づき、毎度のことながら寂しくはなりますが、直ぐに春がやってきて咲き誇るこぶしの花を見ると、「大丈夫、頑張ってるね。」と、心が安らぐのです。



50周年を迎えて



食物栄養学科 宮田 篤教授



本学に奉職したのは1992年4月である。

今は無いもの…学生の制服、入学式後1泊2日のフレッシュマントレーニング、6号館、謎の自動車教習コース跡、教員室、掃除の時間、こぶし会館で毎月あった誕生会、秘密基地のような車庫…この車庫で学園ねぶたの紙貼りや彩色を学生と共にした時期があった。

今もあるもの…何だろう、何もかもが日々目まぐるしく変わる中、初代理事長・学園長のことばと姿の記憶はなぜか鮮明だ。でも、その話を共有できる人も少なくなった。

10年後、私が70歳で停年を迎える時、本学は満60歳の還暦となる。次世代へ生まれ変わり伸びゆく豊かな知恵のレールを、1本の枕木として支えるため、自分ができることを模索していきたい。



青森中央学院大学

暮らしと地域

経営法学部の講義「暮らしと地域」は、外部から講師を招き市民に公開し、学生がともに学ぶ形式で行われてきた。しかし、今年はコロナ感染症対策で受講者を学生に限定。市民にはオンライン公開講座とした。しかも、伊奈かっぺい氏の津軽弁、佐藤ぶん太氏の津軽笛の2講座は無念の休講。

この重い雰囲気、初回に登場した「くるくる佐井村」職員・大畑彩美氏の講演「新聞記者 気付けば漁師の妻に」が吹っ飛ばしてくれた。

会津若松市出身で弘前大卒、福島大大学院を修了。悩んだ末に東奥日報社へ入社。入社後、本社勤務を経て赴任したむつ支局で、佐井村の事業「漁師縁組」の取材で知り合った漁師と結婚したこと、過疎の村の漁師に惚れたのは漁業がとても奥深く感じたからだと言った。

さらに、「田舎暮らし」は、「日常」の中に「非日常」がいっぱい、とユーモアを交えて話し、学生諸君は真剣に聞き入っていた。

(経営法学部教授
高橋 興)



青森商業高校との高大連携事業

現在、青森商業高校は本学と連携し、3年生12名が課題研究「タイで青森りんごを販売する方法」に取り組んでいます。

2020年7月3日、この日は6次産業化（農家が生産した農作物を自身で販売、あるいはジャムなどに加工して自身で販売する）の成功事例を紹介し、経営学の観点から共通する特徴を説明しました。後半には、経営法学部生のディクソン太陽さんと花田翔さんも参加し、グループワーク「どうすればお客さんは喜んでりんごを高く買ってくれるのか？」を実施。授業後、「お客さんの悩みや欲求まで考えて商品が売ることが大切だと分かった」と言ってくれた生徒もいて、課題研究を進展させる手がかりを得てくれたと思われまます。

今後も引き続き同高校より要請がありましたので、青森の農業を盛り上げてくれる“6次化プロデューサー”を育てるため、支援していきます。

(経営法学部准教授
楠奥 繁則)



「社会デザインで挑む地域課題の解決と新ビジネスの創出」キックオフセミナー

2020年7月10日、本学講義室を本会場に、サテライトのAOMORI STARTUP CENTERと、オンライン参加者をWEBでつなぎ、「社会デザインで挑む地域課題の解決と新ビジネスの創出」キックオフセミナーを開催しました。主催となる青森地域産学連携懇談会は、青森商工会議所と、本学はじめ県内7大学で構成されています。本会場とサテライト会場、オンラインの参加者で、およそ120名がこのセミナーを聴講しました。

講師には本学客員教授の中村陽一氏、ゲストに株式会社JSOLの三尾幸司氏を招き、「アフター(ウィズ) コロナの社会デザインと青森」と題して講演しました。参加者は、コロナ禍の今、地域の課題をビジネスの手法で解決し、社会を変えていくことについて学びました。



黒石商業高校出前講座

2020年7月8日、黒石商業高校第2学年の生徒を対象に、「いじめ問題を考える —どうして、いじめはいけないのか」と題して、出前講座を担当しました。いじめ防止対策推進法に基づきいじめの定義、いじめの構造等を理解するための学習です。座学だけでなく具体的な事例を題材としたワークショップにより、いじめ問題を根底から理解できたものと推察します。いじめを防止し解決するために、個人が「どのように行動したら良いのか」を自分事として捉えるきっかけになってくれればと願っています。

和やかな雰囲気の中にも真摯な態度で取り組む生徒の皆さんの姿はとて爽快で、素敵な時間を共に過ごせた幸運を思わずにはられませんでした。

(経営法学部教授 成田 昌造)



援農サークル「en」での学び

経営法学部2年 木村 剛

援農サークル「en」では、東北町で長芋やニンニクの農作業をサポートしています。私は祖父と一緒に何度か農作業をしたことはあったのですが、「商品」を生産する農作業は、援農サークル「en」の活動が初めてでした。サークルでの農作業サポートを通して農家の方々の苦労や、「食」のありがたさを理解することができました。

こうしたサークル活動での学びは、7月22日に県民福祉プラザで開催された「消費生活大学講座」で発表させていただきました。多くの方々の前で、援農サークル「en」の活動内容や、農業に対する大学生目線での考えを発表させていただいたことは、自分の考えをしっかりと伝える力を養う良い経験になったと思います。



「青森県少年サポートボランティア picot青森」の活動について

経営法学部3年 福士 葵葉

私は今年から青森県少年サポートボランティア picot青森として青少年の非行防止の啓発活動に取り組んでいます。ボランティアへの参加のきっかけは、大学生の間に地域住民と密接に関わったり、地域に貢献できる活動がしたいとの思いから、いくつかボランティアの募集を探していたところ、picot青森の活動を教えていただきました。

picot青森では、青森警察署の職員の方と共に朝の挨拶運動や、学習支援活動、広報活動などを通して、少年とより近い目線での立ち直し支援や居場所づくり活動を推進しています。先日は小学校へおじゃまし、紙芝居を通した非行防止活動を行いました。警察官・警察事務の仕事に興味がある人にとっては、今後活かせる有意義な活動ができると思います。



国際交流センターより

第18回日本語スピーチコンテスト開催

翔麗祭のイベントの一つとして、国際交流センター主催「第18回日本語スピーチコンテスト」が開催され、台湾、タイ、マレーシア、ベトナムからの留学生7名が出場しました。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとったうえでの開催となったため、いくつか制限がありました。7名は日本留学によって自身が体験したことや、悩んだこと、日々の生活で関心を持っていることなどを込めてスピーチしました。

審査員長と特別審査員による最優秀賞、優秀賞、国際交流センター長賞も、本学園（青森中央学院大学、青森中央短期大学、青森中央経理専門学校）の学生と高校生（青森高校、青森明の星高校、青森南高校、青森西高校）の皆さんによる学生審査員賞も僅差で決まる結果となり、全員がすばらしいスピーチをしたことを物語る結果でした。

今年はYouTube配信も行ったため、留学生の母国から多くの視聴があり、留学生の日頃の学習の成果を例年以上に多くの方々に見ていただくことができました。



5か国語講座スタート！

海外留学プログラムの一環として行われる語学講座が7月からスタートしました。新型コロナウイルスの影響で、残念ながらこの夏の海外留学プログラムは実施が見送られましたが、「いつか留学したい」「まずはその国の言語を学びたい」と、講座（韓国語、中国語、ベトナム語、タイ語、英会話、TOEIC対策）に登録した学生は、大学、短期大学、専門学校合わせて約40名となりました。

英語以外の講師を担当するのは各国からの留学生たちです。講義のためにオリジナルの教材を用意したり、進行の仕方を考えたりとそれぞれの工夫が感じられる内容です。

全10回の講座は11月初旬まで行われます。異文化をより身近に感じるきっかけとなる語学講座です。



オーストラリア留学を終えて

看護学部2年 中谷 真緒

私が1か月の春季オーストラリア留学に参加した理由は、2つあります。1つは、将来、海外で看護師として働くことも考えているからで、もう1つは、社会人になる前に大学で何かに挑戦して、自分を変えたいと考えたからです。

全く知らない土地で生活するために、自分で考え、事前にしっかり準備をして積極的に行動したことは、英語力の向上だけでなく、自分を変えるきっかけになりました。日本では体験できない現地での授業や、ホストマザーとの生活の中で、自分のコミュニケーション力が上がり、悔しかったり苦勞したりもしましたが、1か月の滞在で大きな達成感を得ることができ、一生忘れられない経験になりました。これから留学を考えている方は、ぜひ行ってほしいと思います。



オープンキャンパスのサポーターを体験して

看護学部2年 水上 愛結

私は1年生のときから2年続けて、オープンキャンパスのサポーターをしています。今年は、キャンパスツアーの案内を担当しました。

私自身、大学構内について詳しく知らないところがあったので、新たに本学を知る機会になりました。そして、受験を考えている高校生の方々に案内しながら、自分の高校時代や入学後の経験を交えて質問に答えることは、とてもやりがいのある体験でした。

初対面の方と接することで、「自主性」や「対話力」を向上させることもできたので、サポーターを体験して本当に良かったと思います。看護師にも求められる技術だと思うので、興味のある方は、ぜひ体験してみてください。



別科助産専攻 開設3年目を迎えて

別科助産専攻は、青森県における助産活動・周産期医療の社会的要請に対応できる助産師の育成を目指して教育を実践し、2020年4月に開設3年目を迎えました。10名の修了生を輩出し、青森県立中央病院、つがる総合病院、八戸市立市民病院、むつ総合病院、三沢市立三沢病院等、青森県の周産期医療の現場を中心に活躍しています。

カリキュラムの3分の1以上を占める助産学実習は、青森県内各地（青森市、五所川原市、むつ市、八戸市、弘前市）の総合周産期母子医療センターをはじめとする病院、診療所の協力を得て、学生の実習を受け入れていただいています。特に分娩介助実習は、ハイリスク妊婦が増加し、少子化が進む県内においても、カリキュラムで課されている10例の経験ができるように、1施設1～2名の学生配置や実習時期を調整し、学生の学習状況に合わせたきめ細やかな実習指導が年数を経るごとにできるようになったと自負しております。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、4月下旬10日間の入構制限がありました。休講することな



く、学生たちは自宅でオンライン講義を受講しました。また、健康教育演習は対面でプレコンセプションケア（妊娠したいときに妊娠できる身体づくりへのケア）を実施予定でしたが、急遽デジタルオープンキャンパスに変更となりました。困難な状況下でも諦めずにオンライン会議など新たな技術を駆使し、力を尽くして取り組む様子に、本専攻の教育目的にある「地域社会において助産活動の充実発展を牽引できる」資質が備わっていると感じ、とても頼もしく思いました。参加者の視聴後オンラインアンケートでは高評価をいただき、学生たちの達成感や満足感はひとしおであったようです。

実習指導等で修了生の姿を見かけると、対象者の声に耳を傾け、悩みながらも生き生きと助産実践しており、青森県の周産期医療を支える仲間として大切にされていると感じます。今後の修了生の更なる活躍に期待しながら、教育に尽力してまいります。（別科助産専攻 教授 伊藤道子）



クアウォーキングを支えようサークル

看護学部3年 佐藤 孔美



クアウォーキングとは、ドイツのクアオルトで行われている「地形性気候療法」の手法を取り入れた、健康づくりに役立つウォーキングです。

私たちが活動する青森市浅虫地区でも、自分の体に合った「頑張らないウォーキング」で持久力の向上などを旨としたクアウォーキングが行われています。

私たちクアウォーキングを支えようサークルは、ガイドの方のサポーターとして活動し、各ポイントで心拍数・皮膚表面温度の測定の手伝い等を行います。約2時間のウォーキングを行い、その後は参加者の方々やガイドの方と一緒に健康を意識したお弁当を楽しく会話を交えながら食べます。実際に参加することで、健康面だけではなく、多くの方とのコミュニケーションの大切さも学ぶことができます。

活動では他にも、サポーター養成研究会や自治体へのPR、学園祭で紹介ブースを設け活動の発信を行うなどもしています。今年は新型コロナウイルス流行のためほとんど活動できませんでしたが、来年は多くの活動ができたらと思います。



2020年度「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催しました

大学で「科研費」(KAKENHI)により行われている最先端の研究成果に、小・中・高校生が、直に見る、聞く、触れることで、科学の面白さを感じてもらおうプログラムです。今年度、本学では、3つのプログラムを開催しました。

☆8/15「人体解剖学を活用して安全な注射の場所を探してみよう！」
看護学部 教授 三國 裕子



☆9/5「入院患者さんの療養環境を整える—観察時の自分の視線を分析しよう—」
看護学部 講師 松島 正起



☆9/26「発掘人骨を鑑定してみよう！～骨から広がる古病理の世界～」
看護学部 講師 藤澤 珠織



2020年度別科助産専攻オープンキャンパスを開催しました

2020年8月8日別科助産専攻のオープンキャンパスが行われました。昨年度から始まった別科助産専攻のオープンキャンパスですが、今年度は14名の方にご参加いただきました。

伊藤主任より別科助産専攻の沿革、青森県内の周産期医療の現状、一般入試について、丸山助教より、別科助産専攻の授業・実習について説明がありました。『在学生と語ろう』のコーナーでは、別科の受験対策、授業の実際、実習についてなど、参加者と在学生の双方向で語る時間を設けました。

またプログラムの最後は、在学生と一緒に回るキャンパスツアーでした。将来助産師に興味がある参加者の皆さんは、実習室にある分娩介助モデル、機械類、胎児超音波モデルに興味津々の様子でした(写真)。在学生は機器類の使い方だけでなく、既習知識を活用して、用途や根拠など、助産ケアに必要な基礎

的知識を紹介しました。参加者からは、「実習室なども見学できてよかった」「機械の体験なども楽しく、ますます助産専攻に興味を沸きました」といった感想が聞かれ、在学生の熱心な説明が伝わったようでした。

青森県内に在籍する助産師数は、人口10万人当たり25.2人(全国41位)と、全国平均に満たず、青森県内の助産師数充足が急務の課題です。本専攻で、青森県内の周産期医療に貢献しうる人材を育成できることは、私達にとって何よりも誇りであります。(別科助産専攻 講師 渡邊 紘子)



青森中央短期大学

開学50周年記念式典が行われました

2020年9月25日、青森中央短期大学開学50周年記念式典が行われました。

式典では青森中央短期大学50年の歩みを振り返るとともに、建学の精神を根幹とし、「情熱あふれるプロフェッショナルを輩出し、ともに地域と生きる大学」という次の10年を見据えた短期大学の決意表明として、将来ビジョンロゴマークとマスコットキャラクター「ちゅっぴい」が発表されました。

また、式典後には『千年の一滴 だし しょうゆ』が記念上映され、日本列島が生んだ和食文化、日本文化の奥深さや素晴らしさを再発見する機会となりました。伝統と改革の狭間で、教育の本質とは何かという問いかけを忘れずに歩んでいきたいです。



JFA公認キッズリーダー養成講習会を受講して

幼児保育学科2年 笹 朝賀

私は、スポーツを通して子どもたちにより良い学びを与えられるような保育者になりたいと思い、講習会を受講しました。講義では、JFA（公益財団法人日本サッカー協会）の「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念のもと、スポーツを通じて育つ子どもの力、子どもの特性、コーチとして求められる環境の配慮、観察、伝達力について学びます。その学びを実践の場で、実際に私たちがコーチとして実践することで初めて見えてくる子どもの様子、道具の使い方の工夫や必要な声かけ等、保育者を目指す上でも必要なことをたくさん学ぶことができました。

このような体験は、座学では学ぶことのできない貴重な経験となり、自分自身の保育力のスキルアップ、そして保育に対する自信につながります。機会をつかんで是非皆さんに受講していただきたいです。



栽培・加工・調理体験を通して 食を楽しむ食育プログラムの開発

園児を対象とし、「五感で育む栽培・加工、調理体験」をテーマに、栽培から加工、調理までの一連の活動を体験することで食べ物の大切さを理解し、五感を使った体験をすることで変化に気づき、興味を高め、さらに観察や記録などを行うことで新たな発見や自主的な学びにつなげていくことを目的とした、大豆の栽培とみそづくりを行うことになりました。

専門家の指導の下、事業の担当者、園児に指導を行う各園の先生方及び本学学生で学園敷地内に大豆畑を作成しました。その後、幼稚園及び保育園の計5園で園児とともに実践。9月下旬には学園内の畑で枝豆となった大豆を収穫し、各園に配布しました。園児からは「お芋みたいにホクホク」との言葉が聞こえたとのことでした。

今後は大豆を収穫し、来年に向けて種となる大豆を選別、そのほかは園児とともに大豆づくりに使用する予定です。「コロナ禍」で思っていた活動よりは縮小されつつも、来年度に活かす結果を出していきたいと考えています。

(食物栄養学科講師 浜中 幸美)



「中短生発県民にパワーを！青森を元気にする弁当」考案と販売

産学官連携の「イトーヨーカ堂弁当」が、今年で9年目を迎えました。作成に向け動き出した5月は「コロナ禍」の真ただ中。様々な式典やイベントが中止となり、人との触れ合いも敬遠される状況で、先が見えず青森県全体が沈んでいる印象を受けました。

そこで青森県を元気にしたいと考え、テーマを「見て、食べて元気になるような弁当」としました。祭りをイメージする料理、青森県がイメージできかつ滋養強壮に効果があると認識されている食材を使用した料理を考え、その中から10種類を選出し今回の弁当となりました。

8月31日には知事表敬、9月8日～13日にヨーカ堂にて販売。販売にあたっては9/8と9/12に作成に関わった学生が売り場で手伝い、お客様の姿から手ごたえを感じたようでした。ちなみに、売上個数は昨年比約130%と大変好評でした。

(食物栄養学科講師 浜中 幸美)



まちなかキャンパスミニ公開講座

「フレイル予防でイキイキ元気」をテーマに3回にわたってまちなかキャンパスミニ公開講座を実施しました。

1回目はオーラルフレイルの予防についての講話とお口の体操を実践しました。2回目は筋肉に必要なたんぱく質を効果的に摂取する方法や日常の食事の注意点についてお話ししました。3回目は簡単にできるフレイル予防の食実践として、豆腐クリームつけダレで食べるつけ麺を作りました。つけダレに豆腐を使用することで無理なくたんぱく質を摂取できるので夏の食欲がない時でも食べやすいと参加者の皆さんにも好評でした。この他に簡単で柔らかく調理する方法として電気圧力鍋を利用したメニューも紹介しました。

これからもしっかり食べて、体を動かしイキイキ元気で過ごしてください。

(食物栄養学科
准教授 森山 洋美)



管理栄養士免許取得のための勉強会

キャリアアップを目指す方を対象に、今年も管理栄養士免許取得のための勉強会を開催しております。在学中に真剣に取り組んだ専門科目ですが、それぞれ現場では重要な科目が職域により異なります。

受講者からは「曖昧だったところがわかりやすく説明され整理できた」など好評をいただいております。毎年合格者も輩出しております。

管理栄養士として学ぶべき学問である基礎科目、臨床科目を学び直す機会とし卒業生や一般の方々にご活用いただければ幸いです。

本学HPに日程が掲載されておりますので、お問い合わせください。母校に集い、国家試験合格という同じ目標に向かい、管理栄養士としてはばたきの一助になりますよう、管理栄養士を目指す皆さまの受講をお待ちしております。



詳細はこちらのQRコード
からご確認ください



郷土と文化

教養科目「郷土と文化」では、これまでねぶた祭へ参加すべく、学生は囃子や踊りの練習に打ち込んできました。子どもねぶたを出陣し、園児らが楽しそうに練り歩く後方で祭を華やかに盛り上げる姿は、1978年から40年以上も続く本学の伝統ですが、今年はコロナでねぶた祭が中止となり、参加は叶いませんでした。

技を身に付ける代わりに、授業では毎回講師の先生方を招き、それぞれの視点から青森の郷土と文化を語っていただきました。「青森の先人たち」「太宰治と青森の美術」「食の文化伝承財」など、改めてこの青森を深く知る良い機会となりました。最終回には、ねぶた師の立田龍宝先生が来校し、ねぶた師として新しいことに果敢にチャレンジしていく姿や、コロナ禍でも諦めずに周りを巻き込んで祭を盛り上げようとする姿に勇気付けられました。

これらの授業から、学生の皆さんは「次の世代へ繋げていくことの大切さ」を実感できたのではないのでしょうか。

(幼児保育学科准教授
木村 貴子)



ビオトープ公開講座開催

ビオトーププロジェクトでは、地域の親子の皆さんを対象に、7月に「セミの羽化鑑賞会」、8月に「親子講座：ビオトープで遊ぼう」を開催しました。セミの羽化鑑賞会では、本学ビオトープに生息するセミが土から這い出し、木に登り、成虫へと羽化するまでの様子を観察しました。ビオトープで遊ぼうでは、幼児保育学科の学生から紙芝居の読み聞かせの後に、附属幼稚園の先生のアドバイスのもとビオトープに生息する生物を見つけるスタンプラリーを行いました。

なかなか見ることの出来ないセミの羽化の瞬間に立ち会い、また、紙芝居に出てくる生物を実際に見つけた親子の皆さんの「センスオブワンダー」を育む機会になれたのではないかと思います。

(専攻科福祉専攻講師 美濃 陽介)



附属第一・第二・第三幼稚園/中央文化・浦町保育園

教育方針

—健康で明るく心豊かな子ども—

- 友達と仲良く遊ぶ。
- よく見、よく聞き、よく考える。
- 思ったことははっきり話す。
- 自分のことは自分でやる。

認定こども園附属第一幼稚園



セミの羽化の瞬間、はじめて見たよ！



いもほり いろんな大きさのおいもが掘れたよ☆



みんなで水遊び 冷たくて気持ちいいな♪

認定こども園附属第二幼稚園



運動会でパイナポー体操を踊りました。パイナップルに変身して上手に踊れたよ。



七夕集会で、天の川にお星さまを貼り、みんなでお願いをしました。



合宿保育で、金魚ねぶた製作！墨で顔を描き、色は好きな色にしてみたよ。

認定こども園附属第三幼稚園



実施できた運動会。年長さんのカッコいいカラーガード。



異年齢で回った水族館見学。楽しかった。



出てくる出てくる、今年のおいもは豊作でした。

中央文化保育園・浦町保育園



♪みずあそび、たのし〜♪



ミニ運動会。ドラえもんになって大好物のどら焼きを持って、ゴール！



大きいおいも、小さくてかわいいおいも、面白い形のおいも…。たくさん収穫したよ！

先生達活躍しています 第21回

「幼稚園看護師として」

認定こども園附属第一幼稚園



看護師 **阿部 千明**さん

青森中央短期大学看護学科第1期生として卒業後、病院で8年間の勤務をしました。子育てが落ち着いた頃、縁があり幼稚園看護師として勤務して今年で3年目になります。

投薬、体調不良児や怪我をした子どもの対応、園全体の衛生管理がメインの仕事ですが、普段は0、1歳児のクラスに入りながら保育業務も行っていきます。病院勤務とは違い、看護師が一人なので判断に困る事や責任の重さを感じる事もありますが、それ以上に、子どもたちの元気いっばいの笑顔と成長に、感動と嬉しさを感じる日々です。

今後も子どもたちの成長を見守り、安心安全に過ごせるような環境作り、関わりを心掛けていきたいと思っています。

「ママ先生として」

認定こども園附属第三幼稚園



嶋田 菜緒子先生

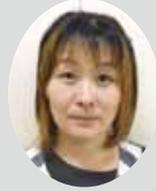
憧れの「幼稚園の先生」になり、クラス担任として子どもたちと向き合ってきた日々から離れて、現在は『主幹教諭』として務めています。園の行事や保護者対応・若い後輩職員の指導や関係機関とのやりとりなど、さまざまな責任とやりがいを感じながら日々を過ごしています。

園には0歳児から5歳児までの子どもが在園し、集団生活の中でこれから生きる力を身に付けられるように、日々指導に取り組んでいます。園の教育方針や子育てに対するアドバイスを保護者に発信し、思いに寄り添いながら一緒に子どもを育てていくことも大切にしています。

私自身もプライベートでは3児の子育てに奮闘する毎日です。ママ先生として、子どもを育てる経験と子育てに関する悩みなどを保護者の皆さんと共有しつつ、積み重ねてきた経験を後輩職員にアドバイスしながら、園を利用する子どもたち、保護者の皆さんに「第三幼稚園でよかった!」と思ってもらえるような幼稚園を目指していきたいと思っています。

「かわいい子どもたちに囲まれて」

認定こども園附属第二幼稚園



小笠原 安紀子先生

保育士として仕事をし始めてから気が付くともう20年…。20年経っても変わらずに保育士を続けてこれたのは、この仕事にやりがいを感じ、忙しい日々の中で子ども達と過ごす時間が楽しく、何よりも「子どもはかわいい!」という気持ちが強いからだと思います。自分の気持ちを表現するために泣いたり怒ったり、時にはかんしゃくをおこしたり、ちょっとした事で気持ちを切り替え、次の瞬間には笑っていたりと、一瞬一瞬を全力で過ごしている子ども達。そんな姿を見ていると、その可愛らしさについ笑みがこぼれてしまいます。

今年度は、2歳児の担任となりました。基本的な生活習慣を獲得し、友だちとの関わり方を覚えていく等、赤ちゃんから幼児へと成長していくのに大切なこの時期。子ども達一人ひとりの成長のスピードの違いを理解し、たくさんの可愛らしい姿を見守り、寄り添いながら、過ごしていきたいと思っています。

読み聞かせたい一冊の絵本

幼保連携型認定こども園中央文化保育園 **工藤 なな**先生

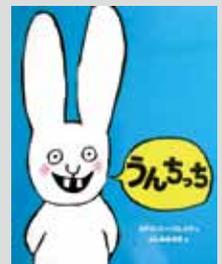
『うんちっち』

ステファニー・ブレイク作 ふしみみさを訳
(あすなろ書房, 2011)

この絵本は、タイトルを見ただけで子どもの心を掴んでしまいます。言葉の印象から、下品なイメージが湧くと思われがちですが、この本はそうではなく、大人も子どもも関係なく、思わず笑ってしまうのです。

うさぎの子シモンは、たった一つの言葉「うんちっち」しか言わないのです。本気なのかいたずらなのか、それはシモンにしか分かりません。ご飯を食べてもお風呂に入っても「うんちっち」。オオカミに食べられ、オオカミが「うんちっち」しか言えなくなり、助けに来たお医者さんがまさかのシモンのお父さん!?

波乱万丈の物語ですが、最後、予想外のシモンの一言に子どもたちは大笑いでした。何度も繰り返し読みたくなる一冊です。



青森中央経理専門学校。青森中央文化専門学校

翔麗祭ファッションショー

青森中央文化専門学校では2020年10月3日、翔麗祭イベントステージより学術交流会館2F大講義室にてファッションショーを開催しました。ファッションショーのテーマは「Infinity」と題し、「Transition」、「BUTLER」、「mignon」の全3シーン・21点のオリジナル作品を発表しました。

ファッションショー終了後は、衣装紹介として各シーンのリーダーから衣装のコンセプトの説明や司会者からのインタビューの時間もありました。

企画、デザイン、演出、制作、構成、音響など試行錯誤しながらステージを作り上げた学生達は自らモデルとなり、ヘアメイクやウォーキングに至るまで日頃の学習成果の発表として、自分たちのショーを作り上げることができ、更なる意欲へと繋げることができました。



翔麗祭にて模擬店を出店しました

2020年10月3日に開催した「翔麗祭」にて、今年も青森中央経理専門学校の学生が模擬店を出店しました。

今年は「ソーシャルディスタンス」と「接触機会を極力控える」ことに特に注意をしながら模擬店の出店を検討した結果、個別包装の状態でお渡しできる「ベルギーワッフル」を販売することで決定しました。例年、翔麗祭の開催は2日間ですが、今年度は1日だけの開催となり、来訪者も昨年度より少なくなることを想定して、販売数量を140個として販売をしましたが、販売すると大盛況となり、あっという間に100個売上、115個を追加販売し、15時には全て完売しました。

仕入～販売・看板作成・チラシ作成等、学生が協力して行った模擬店は、思い出に残る行事となりました。



「郷土と文化」講話

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校では、2020年7月6日に青森ねぶた制作者として活躍されている北村春一氏をお招きし、特別講義「郷土と文化」を実施しました。

今年度は新型コロナウイルスの影響で青森ねぶた祭りも中止となり、毎年度授業の一環で灘子方として参加している学生を励ましたいと北村氏に快諾をいただき、実施の運びとなりました。

講義では、ねぶた師の業務内容はもちろん、ねぶたの作り方や宗派、ねぶたの由来などもお話しいただき、青森が世界に誇るねぶた祭りを改めて知見を深める貴重な機会となりました。

北村氏自身も初の試みとなった今回の講義は、青森ケーブルテレビも取材に訪れ、市民チャンネル「ACTタイム」にて放送されました。



創立記念レクリエーション

2020年7月20日、八甲田憩いの牧場にて創立記念レクリエーションを実施しました。毎年、学園の創立記念日である6月10日前後に実施していますが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大により延期となり、この日に実施しました。

当日は天気が良く、また気温も陽が高くなるにつれ暑くなっていたなか、学生たちはラジオ体操で準備運動した後、スポーツでおもいきり身体を動かしたりバーベキューでお腹を満たしたりして、新型コロナウイルス感染症に気をつけながら楽しんでいました。来年度は6月に実施できるように早くウィルスが立ち去ってほしいものです。



経理発信情報 vol.24 パソコン講座

2020年8月27日、28日の2日間にわたり、青森県総合社会教育センターにてパソコン講座を実施しました。

今回はWord・Excelの発展講座と題して、Wordではイラスト作成を、Excelでは住所録作成を行い、学生と参加者が時折、世間話も交えながら講座を進めていきました。

参加者からは「丁寧な説明で分かりやすかった」などの感想があり、また、学生からは「大変だったけど良い経験になった」などの感想がありました。参加者の多くが2日間とも受講していただきました。本当にありがとうございました。



おすすめ図書vol.22

青森中央文化専門学校 渡辺 琴美 先生

『à Paris パリと生きる女たち』

ジャンヌ・ダマス ローレン・バステード 著
徳山素子 訳

ファッションの代名詞にもなるような街「パリ」。ファッションの中心地として知られ、ファッションを学びたいと思うと、パリへ留学を考える人も多いのではないのでしょうか。私にとって服だけではなく、街並み、人、生き方全てがオシャレなイメージでした。

本書は、モデル、女優、ファッションブランド「Rouje」の創設者である、ジャンヌ・ダマスとジャーナリスト、仏版「ELLE」の元編集長によるパリジェンヌのライフスタイルをまとめたエッセイです。パリで活躍するシューズデザイナーやファッションデザイナーのライフスタイルが描かれています。キラキラした世界で生きていると思いきや狭い世界で質素な生活をしていたり、美にこだわった生活をしていそうで、好きなものを好きなように食べる生活をしていたり。インターネットのトレンド情報やテキストでは学べない「ファッション」を感じることができます。

これからファッションに携わる仕事をする上で、壁にぶつかった時、ファッションを嫌いになりそうになった時に読んで、ファッションを好きな気持ちを出してほしいです。

ファッション通信 vol.22

～ファッションコーディネート～

今回は、カジュアルガーリースタイルに2020年秋冬のトレンドを取り入れたコーディネートをご紹介します。

2020年秋冬のおすすめカラーはグレー、イエロー、ピンクのくすみカラーです。透け感のあるピンクのシアーブラウスに、パンツとスニーカーの色味をオフホワイトで統一し、コーディネートのバランスを取りました。透け感のあるシアー素材は春夏にも流行しましたが、カラーを秋冬らしい落ち着いた色味のものを選ぶと今後も大活躍です。



センタープレスのパンツにトップスをインすることでスタイルアップ効果もありますよ！

寒さに負けず秋冬ファッションも楽しみましょう！（記事・写真：インスタサークル）

卒業生ピックアップ No.33

青森中央文化専門学校 2019年度卒業
(株)Bruge MAJESTIC LEGON 青森ラビナ店 勤務
木村 麻瑚さん

私は青森中央文化専門学校を卒業後、(株) Brugeへ入社し、現在MAJESTIC LEGON 青森ラビナ店で勤務しています。中学生の頃からファッションアドバイザーになりたいと考えており、青森中央文化専門学校ファッション販売専攻に入学しました。授業では、アパレル商品や素材の知識、ロールプレイングや接客の技術、実店舗での実習やスタイリングなど、ファッションに関する知識や技術を幅広く実践的に学ぶことが出来、就職後の店頭業務に大きく活かしていると実感しています。これからも青森中



央文化専門学校で学んだことを糧に、よりお客様に喜んでいただけるサービスが提供できるよう自分のスキル向上に日々取り組んでいきます。

学園共通

青森中央学院大学 青森中央短期大学「翔麗祭2020」を開催しました



2020年10月3日、青森中央学院大学・青森中央短期大学キャンパスにて、「翔麗祭2020」を開催しました。今年の学園祭は、感染症対策として検温や入場制限を設けた会場開催だけではなく、オンライン配信を活用した「ダブル開催」を企画し、キャンパスに来られない方などより多くの方にも楽しんでいただきました。



教職員合同SD研修会を行いました

2020年8月5日、青森中央学院大学・青森中央短期大学の教職員、そしてプラットフォーム青森加盟校教職員を対象とした「2020年度前期合同SD研修会」を学内で開催しました。

本学のSDマップに則り、体系的かつ段階的なSDとして、株式会社インソースの津田ひとみ氏を講師に招き、社会人の基本となる『クレーム対応』について学びました。

この研修では従来にはない新たな取り組みとして、教員を含んだ研修であること、オンラインで実施したこと、そして3密を避けるために会場を分散したことにチャレンジしました。

今後も本学ならびに地域の高等教育発展のため、体系的かつ段階的、そして継続的なSDを行ってまいります。



青森創生人財育成・定着推進協議会設立

2020年9月15日、弘前大、青森公立大、県立保健大、東北女子大、八戸工業大、青森大、弘前学院大、八戸学院大、青森中央学院大、弘前医療福祉大、青森明の星短大、青森中央短大、八戸高専による「青森創生人財育成・定着推進協議会」（会長＝福田眞作弘前大学学長）が設立されました。

この協議会は、地域の課題を解決する人材の育成や、学生の地元定着の促進を目的とした事業を推進するために、県内13の高等教育機関がタッグを組んで設立したものです。本学園からは、青森中央学院大学と青森中央短期大学が加盟しています。

青森市のホテル青森で開催されたキックオフ会議には各校の学長らが集結し、設立に係る趣意書や規約を取り決め、今年度の事業計画について話し合いました。

協議会では県内を青森、弘前、八戸、むつの4ブロックに分け、青森県はじめ市長会や町村会、経済団体等の協力を得ながら、インターンシップや企業見学会、就職セミナーなど、学生の人財育成と地元定着に向けた事業を展開していきます。

公開講座等案内

● 「市町村長リレートーク」

会場：青森中央学院大学学術交流会館921

日程	講師	講師
11月4日(水)	三沢市における国際交流の在り方	三沢市長 小檜山吉紀氏
11月11日(水)	「町民とのキャッチボール対話」で夢と未来のまちづくり	南部町長 工藤 祐直氏
11月18日(水)	大正浪漫と令和のまちづくり	中泊町長 濱舘 豊光氏

● 「青森中央学院大学公開講座」

日程	内容	講師
11月9日(月)	あおりリズム創発塾2020 「ポスト／ウィズコロナ時代のアートリズム」 第1部：基調講演 第2部：トークセッション	青森中央学院大学 中村陽一 客員教授 ゲスト：劇作家・演出家 畑澤聖悟氏
12月15日(火)	地域マネジメント研究所 ビジネスセミナー 「DX活用による組織能力高度化による地域の活性化」	MCS研究所 山本邦雄氏

● 「青森中央短期大学公開講座」

会場：青森中央短期大学内

日程	内容	講師
2021年1月9日(土)	ホタテ博士になろう～ホタテ丸ごと探検～	食物栄養学科講師 辻村 明子
2021年1月30日(土)	プログラミングで造形表現してみよう	幼児保育学科助教 具志堅裕介

● AOMORI SIX 青森市産官学連携プラットフォーム

会場：東奥日報新町ビル

日程	内容
2021年2月13日(土)	「情熱無限大AOMORI SIX合同学修研究発表会」 青森市内6大学の学生たちが、普段の活動や研究の成果を発表します。 今年度は第3回目の開催となります。



「こぶしの花」掲載写真募集！

「こぶしの花」編集委員会では、青森田中学園報「こぶしの花」の表紙写真を募集しています。緑豊かな学園内での、四季折々の風景を題材とした在学生の皆さんの作品をお待ちしています。

■応募期間：通年

■応募方法：応募先メールアドレスに、①件名「こぶしの花写真応募」 ②本文「学部学科・学生記番号・氏名・電話番号」を記入し、写真データを添付して応募ください。

なお、応募作品は、青森田中学園在学生が撮影した未発表のものに限ります。掲載が決まりましたら、こちらから連絡いたします。

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※お問い合わせもこちらのアドレスまでお願いします。



携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第103号

発行日：2020. 10. 30

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<https://www.aomoricgu.ac.jp>

<https://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

杉田由佳理 丸山 夏弥

外崎 秀香 木村 貴子

渡辺 琴美 坪谷 輝子

中田 尋美 岩葉 悦子

高橋 晴美 町田美智子